

「書類審査での意見概要」に対する回答（ひだまり食堂）

Q1. 子ども食堂 1 回あたりの食材費の内訳を知りたい。

A. 内訳は以下の通りです。※5 月 18 日実施分です。明細は別紙を参照して下さい。

- ごはん： 2,255 円
 - からあげ： 7,218 円
 - 味噌汁： 1,108 円
 - サラダ： 1,200 円
 - その他 395 円
 - 合計： 12,176 円
 - 1 食あたり： 304 円
- ※上記金額はすべて税込み。

Q2. 衛生管理はどう取り組んでいくか知りたい。

A. 代表が「食品衛生責任者 養成講習会」を受講し、得た知識をスタッフと共有しています。他スタッフ 2 名も資格を持っています。

- 具体的には、
 1. 手洗い消毒の徹底。
 2. 髪の毛が落ちないように三角巾等の着用を義務化。
 3. 生肉に使った包丁とまな板を他の食材に使わない。
 4. 鶏肉は中心部を 75℃以上で 1 分以上加熱する。

Q3. 事業実施の試行期間を設ける予定か知りたい。

A. 試行期間は設けません。もっとも、練習も兼ねてまんぷく食堂さん主催のイベントにてランチの提供をさせていただきました。

- きっかけ：まずは集客の心配をせずに、メニュー決め、食材の仕入れ、分量、事前準備、当日の動き方などに慣れる場として、まんぷく食堂さんが提案してくれました。

Q4. 食材の仕入れなど役割分担は決めているか知りたい。

A. 事前準備としては、チラシ作りはスタッフが行い、残りは私と妻が行っています（スタッフへの連絡、食材・備品の買い出し、施設予約、SNS 運用、HP 制作など）。スタッフには、食材寄付の呼びかけを手伝っていただいています。開催当日の役割分担は事前に決めています。

Q4. 参加者の募集方法について教えてほしい。

A. 以下の方法を考えています。原則 Google Form から参加のお申し込みを受け付けし、入力が苦手な方は電話等に対応します。

1. インスタグラムで開催の告知
2. HP で開催の告知
3. 公共施設にチラシを設置
4. 民間施設にチラシを設置
5. 知り合いへの呼びかけ

以上

食材費の明細 2025年5月18日分

メニュー：ごはん、からあげ、サラダ、みそ汁（40食分）

No.	食 材	数 量	☑	金 額	備 考
	【主食】				
1	米	3.0kg		2,088	
	【からあげ】				
2	鶏むね肉	18枚(9パック)		3,540	18枚×8個/枚=144個
3	しょうがチューブ	1本(大)		299	
4	にんにくチューブ	1本(大)		299	
5	酒	1本		189	
6	しょうゆ	1本		139	
7	砂糖	1袋		199	
8	塩	1袋		119	
9	卵	1パック(10個入)		239	
10	塩コショウ	1本		179	
11	片栗粉	2袋(大)+2袋(小)		676	
12	油	3本(1L)		805	
	【味噌汁】				
13	味噌	1個		299	
14	わかめ	1袋		259	
15	豆腐（木綿）	1パック		中止	
16	たまねぎ	2個		189	
17	ほんだし（顆粒）	1袋(40g以上)		279	600mlで4g。6,000mlで40g使う。
	【サラダ】				
18	レタス	2玉(大きめ)		198	25g/皿
19	水菜	1袋		99	
20	トマト	5玉		338	1/8カットで提供
21	和風ドレッシング	2本		476	
	【その他】				
22	お茶2L	3本		267	
23	ふりかけ(のりたま)	1袋		99	
	小計			11,274	
	消費税			902	
	合計			12,176	
	1食あたり			304	
	【メニュー別】			税込	
	ごはん			2,255	
	からあげ			7,218	
	味噌汁			1,108	
	サラダ			1,200	
	その他			395	

新しい公共交通とモビリティ①

別紙 1

AIオンデマンド交通



利用者予約に対し、リアルタイムに最適配車を行うサービス。定まった路線を持たず、配車予約と車両位置からAIがリアルタイムに最適な運行ルートを決するため、乗合をしつつ、概ね希望時間通りの移動が可能



駅周辺の施設、店舗などに乗降場所を40力以上設置してAIデマンド交通サービスを行うことで、通勤や通学、子育て世帯のお買い物や公園へのお出かけなど、さまざまな地域住民の移動手段として

MaaSシステム(Mobility as a Service: サービスとしてのモビリティ)



移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービス



「乗換案内」システムに予約+支払い機能がついたもの
サブスクリプション機能(一定期間一定料金乗り放題)もある。

新しい地域公共交通とモビリティ②

・グリーンスローモビリティ

時速20km未満で公道を走れる電動車や、それを活用した小規模な移動サービス



・コンパクト・モビリティ

第一種原動機付自転車、軽自動車など、自動車よりコンパクトで環境性能に優れた1~2人乗り程度の小さな車両



香川県・伊吹島「日本一コンパクトな車体の路線バス」

・自動運転車

超高速ネットワークとAI、ビッグデータを利用し自動で走行する自動車

茨城県境町の自動運転車両

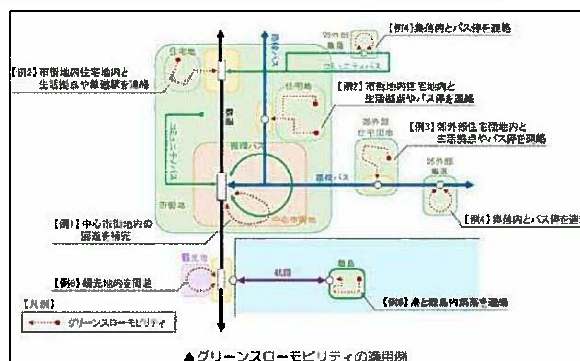
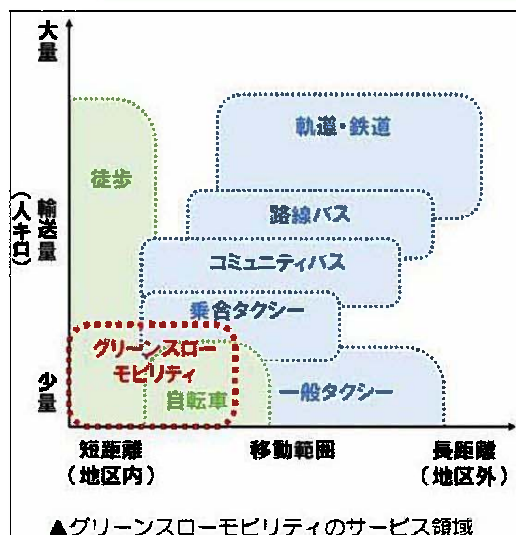


・LRT

100%バリアフリーと謳う宇都宮の新しい路面電車

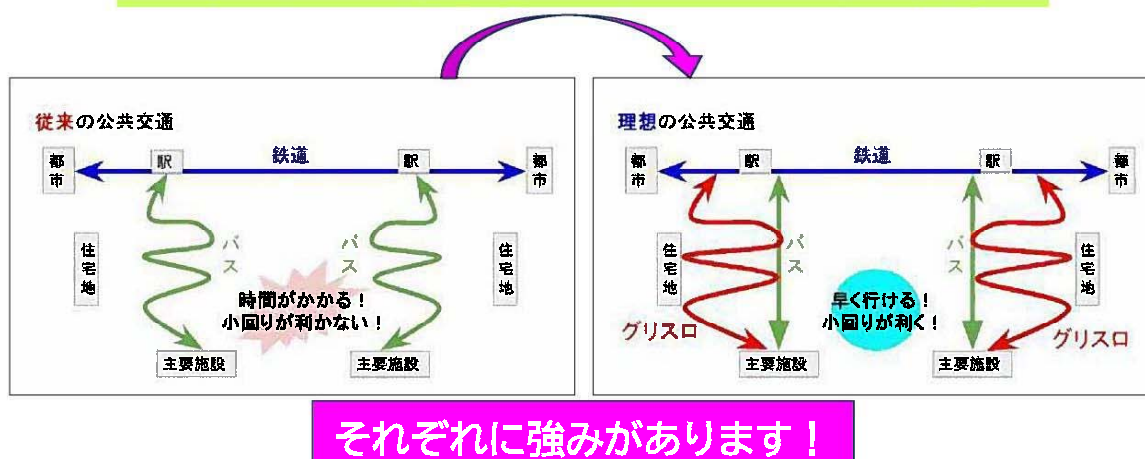


国交省が推奨する各モビリティの役割



出典：グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き
国土交通省 総合政策局 環境政策課 [00_405966.pdf](https://www.mlit.go.jp/road/00_405966.pdf)

白井市で今後想定する各モビリティの役割



実証実験予定対象地域の選定

七次台三丁目、および隣接する七次台四丁目、野口地区を対象とする。

選定理由

- ① 七次台三丁目はニュータウン開設当初からある、いわゆるオールドニュータウンである。
- ② 高齢化が進み、外に出ていく人が少なくなっている
- ③ 2024年から路線バスの大幅減便が行われ、通勤時間帯に駅まで行く手段がなくなった（ナッシー号で駅に向かう便が1本あるが、大回りとなるためあまり利用されていない）
- ④ 最寄りのスーパーまで1Km以上あり、狭路、急カーブ、高低差があり、徒歩、自転車、車いすは危険で、自家用車がないと行きづらい（カスミの移動スーパーが軽トラで週2回来るが品数が少ない。）



- ・ **高齢者・障がい者等の移動困難者、免許証返納者の外出機会の創出**
- ・ **ニュータウン一斉高齢化となる地区の再生(地域活性化)**

実証運行のルート案（仮）

1 西白井駅方面

ルート候補	目的地・経由地	曜日、または時間	対象者	目的、事由
A. 駅直通ルート	東集会所・野口台公園・第一集会所 ⇄ 西白井駅	平日：火～金曜日 AM6:30～7時台	通勤通学	①路線バスの補完 ※1
B. 複合センタールート	東集会所・4丁目集会所・野口・第一集会所 ⇄ 西白井複合センター	平日：火～金曜日 PM1～3時台	子育て親子 高齢者 他	④高齢者送迎 ※2 ⑤子育て中親子送迎 ②買い物 ③病院 ①路線バスの補完

(※1) 駅直通ルートは、地域内全てを回らず2箇所の集会所とバス停を経由して目的地に向かう

(※2) 西白井駅前の複合センターには「老人憩いの家」「児童館」があり、その他にも市民活動の拠点になっている。また近くにスーパーマルエツ、ファミリアクリニック等がある。路線バスと重ならない時間帯を選べば、路線バスの補完となる。

実証運行のルート案（仮）

2 西白井ベリーフィールド方面

ルート候補	目的地・経由地	曜日、または時間	対象者	目的、事由
C. 柏アリオ・新鎌ヶ谷行き路線バス 接続ルート	東集会所・4丁目集会所・野口・第一集会所 ⇄ 西白井2丁目(千葉セントラルバス停)・西白井コミプラザ	平日：火～金曜日 AM10:30(往路) PM 4:30(復路)	子育て親子 高齢者 他	⑥接続 ②買い物 ④高齢者送迎 ⑤子育て中親子送迎 (親子サークル等)

このルートでは、新鎌ヶ谷とセブンパークアリオ柏間を走る路線バス（旧レインボーバス）に接続することにより、車のない方でもアリオに行くことが出来るようにするものである。また、コミュニティプラザでは多くの市民活動を行っており、それらへの参加を促すものとなる。なお、ナッシー号を利用しても行くことは出来るが、路線バスと停留所が離れていたり、乗りかえ等の際に道路を横断する必要があり、横断歩道がなく危険である。提案のグリスロではその点も考慮してルート設定を行う。

実証運行のルート案（仮）

3 やおばあく／文化センター方面

ルート候補	目的地・経由地	曜日、または時間	対象者	目的、事由
D. やおばあく・スーパータイヨー 買い物ルート	東集会所・第一集会所・野口・4丁目集会所 ⇄ やおばあく・スーパータイヨー	平日：火～金曜日 PM1～3時台	子育て親子 高齢者 他	②買い物
E. 文化センター ルート	東集会所・第一集会所・野口・4丁目集会所 ⇄ 文化センター	日曜日：文化センター、総合公園での催し物時	文化センター 利用者	⑦日曜日の交通確保

平日は買い物バスとしてやおばあく、スーパータイヨーへ行く。
ナッシー号が走らない日曜日は途中からルートを文化センター方面に変えて、文化センターへの利便性を確保するというものである。

白井市における新しいモビリティがもたらす 未来の都市生活



東京都市大学

ユニバーサルデザイン研究室

講師：西山敏樹教授

都市工学者。東京都市大学都市生活学部都市生活学科・大学院環境情報学研究科教授。
一般社団法人日本イノベーション融合学会理事長。専門はユニバーサルデザイン、公共交通のシス
テムと車輦(特にバスに精通)、未来都市論、社会調査法等。バス事業経営(運転士不足問題等)、
バスジャックやバスの火災等の安全対策でテレビ・ラジオ出演多数。

